

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	<input type="radio"/>	日頃の散歩や買い物、地域での催し物への参加等、積極的に行うようには心がけているが、より地域の方々(特に近隣住民)に認知症の状態にある「人」が地域の中で生活を営む姿を理解していただけるよう、今以上に地域に出て行く機会を増やしていきたい
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実際、入所されている方々の生活を営む姿を支える事に追われ、近隣の方々の暮らし、という部分に関しては取り組みがほとんどなされていない	○	事業所として「地域の方々に理解してもらい支えてもらう」というイメージばかりが先行するが、人が生きるうえでは「支えあう」事が大切な事だと思うので、はすぬまとして少しでも地域に役立つことがないか模索していきたい。まず第一歩として、近隣にある役場の出張所、ITセンターに広報誌を置かせてもらうことから始めていこうと思う
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	衛生上の問題として、毎日利用者と共に掃除を必ず行い、また物品等の整理も行い、清潔な環境作りを心がけている		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、必ず運営推進会議を開催し、ご家族から出た意見を参考にリーダー会議で議題に挙げ、次回の運営推進会議の際に必ず具体的な案をご家族に掲示するようにしている	○	法律上、義務付けられている事ではあるが、義務での参加となると負担に感じる家族も少なくないと思うので、家族が「参加したい」「参加してみよう」と意欲的に参加できるように会議の内容を考え運営を進めていきたい
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1回、山武市グループホーム連絡会に参加し、市町村の担当者と今後どのような事をどのような形で進めていくことにより、各事業所のみならず、山武市自体が地域の中で共に支えあう街となっていくのか、というような事を事業所、行政と一緒に考えていく機会を設けている		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	様々な事情を抱えた状態で入居を迎える方もいるという事で、必要時には必ず的確な制度の利用が円滑に行われるよう、カンファレンスの中で皆で学ぶ機会を随時設けている		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人としての生活を営む姿を確立する+認知症という状態にある、両方をしっかりと学ぶことにより、職員が認知症から現れる症状に対して「当たり前の事」という認識のもと、日々の支援を行っていきけるよう、皆で学んでいく機会を設けている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には必ず、本人、家族との話し合いの時間を多く設け、入居にあたっての希望、また不安・疑問点の確認を密に行い、双方が理解、納得のもと入居が出来るような環境作りに努めている		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者一人ひとりが生活を営むうえで、どのようなニーズを抱えているのか、なぜ利用者が不満を抱くのか、その原因をカンファレンスやフロアーミーティング、日々の会話の中で話し合う事を心がけている。また家族面会時には、時には居室で一緒に過ごしていただく事により、利用者が思っている事を外部の方に言えるような環境作りに努めている		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には少しでも家族との会話の時間を設け、口頭での報告。また、月末には広報誌や各担当者からの1ヶ月の生活の様子を記した生活報告書、1ヶ月の使用金額等を明記し、家族に送付している。広報誌の中では、その月の生活の様子や新しく入職した職員の紹介もしている	○	担当者が家族へ送る生活報告書の書き方も、家族によっては必要以上に心配をおかけしてしまう可能性もあるというような事も意識しながらの記入を心がけている
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「苦情申し立て窓口・担当者」を設け、重要事項説明書に明記している	○	日々の面会時や、運営推進会議などで少しでも家族の思っている事を引き出せればとは思っているが、「お世話になっている」という思いから、なかなか希望や不満等を言い出せない家族もいると思うので、利用者と同様、家族がどのような気持ちなのかという事も常に意識していきたい
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス、フロアーミーティング等、事業所として設けている時間のみではなく、日々のちょっとした時間も大切に、職員間での会話を設けるようにしている(無駄話ではなく)	○	管理者が個々の価値観で全てを決めてしまうと、その都度答えが変わったりと、現場の職員も迷ってしまうため、まずは大切にすべき部分(理念)を皆で共有し、その考えを根底に置いた方法であれば、安易に否定することなく、どんな些細な事でも、管理者と職員が一緒になって考えていける環境を作り上げていきたい
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	毎月1度、ケースカンファレンス、フロアーミーティングを行っている。また、管理者、ユニットリーダーの参加するリーダー会議、管理者のみで行う管理者会議も行っている。どうしても夜勤や休日に出勤しなければならない職員もでてくるが、その人が毎回同じ役を担わないように、会議の開催日には注意している		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット毎に職員は固定し、馴染みの顔の人が常に傍にいますような環境を整えている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJT、OFFJT共に取り入れながら、職員の育成には励んでいる。ただし、職員も十人十色で全員が同じ考え、同じレベルを目指すという事は困難極まりないため、注意するのみではなく、まずは良い部分を見つけそれを認め、その部分を各自が伸ばしていく事により、職員間で共に刺激を仕合ながら、少しずつ様々なことを一緒に考えていけるような環境作りに力をいれている	○	利用者と同様、職員もどのような事を望み、どのような事に悩んでいるのかはそれぞれ異なってくるので、職員一人ひとりともしっかり向き合う時間を設け、皆で一緒になり利用者の生活の確率に向け歩んでいきたい
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉市や山武市の連絡会等に参加し、現場の職員同士が接する時間を設けるようにしている。また、外部の施設への研修等の機会を設け、様々な形態の事業所で様々な取り組みを行っている事を実際に目で確認する事により、自分の事業所で何か活かす事はできないかを考える機会を設けるようにしている	○	山武市のグループホーム連絡会に参加はしているが、現在はホームの代表(主に管理者レベル)の方々のみの交流となっているので、今後は現場の方々も参加し、共に刺激を受けあうような環境を作り上げていきたい
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	人間関係に関しては多くの方がストレスを感じやすい為、日頃からとにかく会話(仕事でも仕事以外のことでも)の機会を設け、円滑な関係のもと日々の支援を行っていきけるような環境作りに努めている。また、認知症という状態から現れる行動障害に関しては、皆で認知症に対する知識を学ぶことにより、少しでもストレスの軽減になればと思い、勉強会を実施している	○	職場外での職員間でのコミュニケーションの場として、簡単な食事会等も皆の希望を聞きながら今後検討していきたい
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者としての価値観、考えを押し付けてしまうとそれを義務と感ずることにより、それ以上の意欲向上が望めなくなってしまうので、向上心を持ちながら日々の実践を行っていくためにも、まずは介護という仕事に興味を持ってもらえるような関りを意識している	○	表面的な部分や、ある一部分のみでその職員を判断する事を防ぐためにも、日頃から時間に余裕がある際には、少しでも状況を把握できるよう、現場の中に入るようにしている
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前には必ず本人との面接の機会を設け、本人の希望に添った入居が行えるようにしている。また、入居が決定した時点で、各職員には情報を流し、本人がなるべく不快な思いをする事なく入居できるようにしている。また家族より了承が得られた場合で、以前何らかのサービスを利用していた場合には、担当者に連絡をとり情報を得るようにしている		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前には必ず家族との話し合いの機会を密に設けるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは本人と家族の話を傾聴し、その中でそれぞれがどんな事に不安や疑問を感じているのかを見極めるようにしている。また見極めたうえで、現在の状況にはどのような対応がベストなのかという事を常に意識しながらの支援を心がけている		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族には必ず見学をもらい、本人の状態によっては一緒に見学してもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に生活を送るという視点から、些細な事でも利用者と一緒に作業を行いながらの共同生活を意識している。「してあげる介護」ではなく一緒に何かを行うことにより、必ず何かを教わる機会がでてくるので、共に求め合い、支えあう関係作りが出来ている	○	介護はしてあげる、というイメージがあるが、なぜそれらを利用者と一緒にやっていく必要があるのか、という部分をスタッフ全員で考えられるような環境作りを少しずつ行っている
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	お世話になっている、という気持ちを少しでも軽減してもらえるよう、職員からも家族に対して利用者に関する様々な事を聞く機会を設け、共に意見を出し合う事により、利用者の生活の確立に向け努力している		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の理想像で語るのではなく、過去を理解したうえでどこまでを専門職として関るべきなのかを常に考えながら接するようにしている		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	1日1回必ず買い物に出る際には、必ずこの近辺の話題を会話に持ってくるなどしている。また、馴染みの場所がはすぬまから遠い方は、テレビや雑誌等でその場が出ている際には必ず声を掛けるようにしている	○	馴染みの人との交流に至っては、年賀状などのハガキの交換のみになっている。もしかしたら、職員の知らない、会話に出てきた事のないような人もいないかもしないの、ぜひ本人や家族に聞いてみようと思う。その際には、家族やその対象の方の状況も的確に見極めていきたい
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事の介助や、洗濯物を届けるなど、利用者間で行える事はなるべく意識をして声をかけるようにしている	○	どうしても職員 利用者とのみの関係になりがちだが、あくまでもここで生活を送るメインは利用者という事を忘れずに、関わりが職員のみになってしまうようにする為に、他にどんな工夫があるのかをフロアーミーティングなどで皆で話し合っていきたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族が関わりを望む際には、それを断ることなくそれぞれの状況を把握したうえでの関係を作っている		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まずは事業所の理念でもあり、利用者全員に共通する「人」の部分は生活を営むという視点から大切にする。そのうえで、誰もが個人にしかない希望を持ち合わせているという事を理解し、日々の関わりの中で得た情報をケアプランや行事、余暇活動に反映させるようにしている	○	入居者全員に共通する部分である「人が生きる」という事と、個々にしか存在しない意欲や希望を混同させない為にも、「認知症だから」という視点から日々の支援に入っていないよう、現在フロア間で深めている
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に個別表の作成。作成時には、本人、家族のみならず、家族に了承が得られた場合、以前利用していたサービスの担当者にも連絡をとり、情報の収集に努めている	○	情報の把握、共有だけでは意味がないので、職員間でどのような事を実践していけばよいのか、という部分までしっかりと勤めていけるように、日々の会話やミーティングの時間は大切にしている
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	特に業務や何曜日の何時はこれ、といったような事は定めず、その場その瞬間の雰囲気や感情を大切に、実践に移していけるような環境を整えている	○	利用者のニーズを引き出す事や、その場の雰囲気を感じ取る事ができなければ、ただ何もせず1日が過ぎていってしまう、という事にもなりかねないので、瞬間の大切さの理解を今後職員間でどのように共通のものとしていけるか、現在方法を模索中
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各利用者には担当者を設け、行動障害と自立支援の両面から見たプランを作成している。また、担当者からの視点だけでなく、客観視という意味合いも込め、月に1回必ず管理者と担当者がカンファレンスを行っている	○	介護計画となると、どうしても解決しなければいけない課題ばかりに目を向けがちだが、本人の持っている能力を振り返る事により、新たな本人の希望、意欲を導き出す事ができると思うので、課題ばかりに目が行かないよう、カンファレンスの際には注意している
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1度のカンファレンスの際に、変更事項がないか随時確認をしている。また、完成したプランは3ヶ月に1回家族に送付し、了承の意味も込めサインをいただいている。	○	介護計画はあくまでその瞬間の利用者の姿を、1枚の用紙に記したものであるという事を認識し、記録として残されている瞬間と同様、日々の関わりの中の瞬間も大切であるという事の認識も同時に皆でしていかなければと思う。今後それらの事を、皆で認識していく必要があると思う

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録にはその日にあった出来事のみではなく、ちょっとした会話の内容をセリフレベルで記入するようにしている。日常の会話の中から得られる情報はとても多いと思うので、それらを十分に活用しながら、会議やカンファレンスを進めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急でショート希望があった際には、その時の入居状況に応じ短期入所も受け付けるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方々への依頼により、パッチワーク等の作業と一緒にやり行ったりもしている。また、施設の中に呼び込むだけではなく、こちらからどんどんと地域に飛び出していき、幼稚園への慰問や近隣で行われるイベントへの参加もこころがけている		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族が希望をされる場合には、それぞれが他のサービスへの移行が円滑に進むよう、ケアマネジャーや他事業所との話し合いを進めていくようにしている		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要性に応じ、その都度連絡をとり情報交換を行っている		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には必ずかかりつけ医に関する確認を本人または家族に行い、了承のもと行っている。また、完全予約制の為、特に病院の利用に関しては不便さを感じていない		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけという事で顔なじみの関係でもある為、不安な点などは受診時等に随時相談している		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけの病院の看護師にも気軽に相談できるような環境ができている		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先にはこちらでの生活状況を送り、治療に役立てていただいている。また、面会の回数等多めに設け、医師の了承が得られれば早めの退院に向け、病院側や家族との連絡も密に行うようにしている		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	情報が得られた段階で、医療関係者や家族、そして本人との話し合いにより、今後どのような方向性で進めていくかを早急に話し合っている		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルを意識し、重度化した状態の方でも、何か望んでいる事はないかを常に考えながら日々の生活は作り上げていっている。また、急変時には必ず近隣にかかりつけのDrがいる為、早急に受診ができるような体制を整えている	○	限界のラインを引かなければいけないような際には、それがあきらめではなく、やれることを本当にやったうえでのラインなのか、という事は必ず考えていきたい
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	こちらでの生活状況を用紙としてもとめるだけでなく、担当の方と実際にお会いし十分な情報交換を行う事により、リロケーションダメージの軽減に努めている		


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	広報誌等に写真が載る関係もある為、入居時に必ず家族に写真の可否を確認している。また、個人情報記載された用紙は必ずシュレッダーにかけるようにしている	<input type="radio"/>	ちょっとした言動に過敏に反応する事もある為、どのような関わりが目の前の人にとってベストかという事は常に皆で話し合うようにしている
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとり認知症の状態も異なり、求めている事も違うという根本的な部分の説明は常に行うようにしている。また、人として生活を営むうえで、自分で自分の行動を決めるという事を大切にしていける為にも、言葉の語尾を必ず「マーク」で終わらせ、本人に選択肢を与えるような関わりを意識している	<input type="radio"/>	自己決定、意思の尊重などよく使われる言葉だが、なぜそれらが大切なことなのか、という事を根本から理解していく為にも、理念をもとにもっともっと皆で深めていきたいと思っている
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	この時間には必ずこれをしなければならないというような業務はそもそも設けていないので、都合(業務)を優先させる事は少なくなるよう意識している	<input type="radio"/>	どうしてもやらなければいけない事もあるが、やらなければいけないという意識から、利用者の気持ちを無視し強引に進めるのではなく、なるべく本人の意思に基づいた行動を、また物事を進めた後には必ず笑顔でその行為自体を終わらせるような工夫に対しての学びが必要だと思うので、今後フロアミーティング等で皆で話し合っていきたい
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類に関しては、入居時に持ち込んでいただいた昔から着ていた物を、なるべく本人に確認してもらいながら着ていただくようにしている。また、整髪、髭剃り等も、起床時や入浴時に随時行っている	<input type="radio"/>	訪問理容を行っている為、外に出での整髪は行っていない。その為、本人が望むようなお店に関して聞いてみた事がないので、今度ぜひ聞いて見たいと思う。ただし、家族との話し合いをきちんと行い、なんとなく外で切るのがいいからという安易な気持ちのみで外に出るような事がないよう気をつけたい
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	1日1回必ず近隣のスーパーへ買い物に行くのだが、メニューを決める際には、必ず利用者と一緒に決めていくようにしている。また、準備、後片付けに関しても、利用者ができる事は任せたり、一緒に行うようにしている	<input type="radio"/>	出来る事をやってもらい、一緒に行う、という事が一番大切ではなく、事業所の理念である「人が生活を営む」という事を大切にしたい。本当はやりたくないのに、誰かに言われて強引に行うのではなく、本人が自ら「やる」「やりたい」と思えるような関わりを、今後スタッフ間で深めていきたい
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	喫煙に関しては、自由に行えるようにしている。(火の管理は不可能な為、こちらでの管理) おやつに関しても、毎日の買い物の際利用者と一緒に選ぶようにしている。	<input type="radio"/>	お酒 アルコール性の認知症の方がいる為不可。飲み物に関しては、常時麦茶とお茶のみの為、ぜひ買い物に行った際に利用者に聞いてみようと思う

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々に合わせた排泄チェック表を作成し、排尿、排便のパターンを確認しながらトイレへの声かけ、誘導を行っている。	<input type="radio"/>	
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を特に業務として定めずに、毎日の入浴を心がけている。その為、利用者から「入りたい」との希望が聞かれた際には、すぐに応える事ができている	<input type="radio"/>	
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	朝食時等、まだ眠っている人に対しては、強引に声をかけて食べてもらうような事はせずに、起きてから対応するようにしている。また、なるべく日中の活動量を増やし、薬に頼らず安眠できるようにしている	<input type="radio"/>	日中どうしてもソファなどでの傾眠は見られる時があるが、昼夜逆転にならない為にも、なるべく声をかけるようにしている。ただし、それが本人にとっては不快であったりする時もあると思うので、余暇活動を少し工夫し、本人が自らの意思でなにかに取り組むような環境を作っていきたい
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩や将棋等、昔本人が興味を持っていたこと、意欲的に行っていた事を継続してできるようにしている	<input type="radio"/>	まだまだ、本人がやりたい事、興味を持つような事がたくさんあると思うので、本人や家族との会話の中から情報を拾い上げ、少しずつ取り入れていきたい
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族が希望し、尚且つ管理する能力を持ち合わせている場合には、個々で持ってもらっている。また、金額も随時確認し、不手際がないようにしている	<input type="radio"/>	お金を持っている人が買い物に行く際には、個々の好きな物を個人で購入できるようにしている。その際には、だいたいいくらくらい使い、残りがいくらくらいなのか、というような事も各自で把握できるようにしている
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩への声かけや、外に出て行こうとした際には、なるべく強制的に止めるような事はしないようにしている。	<input type="radio"/>	ただ外に出るという事が良いことではないと思うので、強引に出す、止めるというような事はしないようにしている
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族より外出の希望があった際には、積極的に行うようにしている。また、帰りの時間等も家族に任せ、気兼ねなく外出が出来るようにしている	<input type="radio"/>	1ヶ月に約1回のペースで皆での外出を行っている。また、今年度は1泊旅行も計画している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話等の希望があった際には、家族への連絡が行えるようにしている	<input type="radio"/>	連絡自体も、利用者が望むからという理由のみで行うのではなく、家族の状況も考慮したうえでの連絡をこころがけている
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会に関しては特に制限を設けず、いつでも気軽に訪問していただけるようにしている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営理念「人としての生活を営む」事を根底に起いた支援。法律的部分への理解ではなく、とにかく理念を大切にしている	<input type="radio"/>	縛る等、目に見える拘束だけではなく、目に見えない言動での拘束に関して、これから皆で深めていきたい
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	原則として夜間以外は鍵はかけていない		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	事故は常に起こる可能性があるという事を常に意識し、今誰がどこでどのような状態なのか、という事は常に意識するようにしている。ただし、必要以上に声をかける、状況の把握を行おうとするがあまり、利用者本人が息苦しくなってしまう可能性があるため、職員間で随時声を掛け合いながら注意している	<input type="radio"/>	離園の可能性もある為、玄関にはセンサーを設置している
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者一人ひとりの能力を見たとうえで、持ち帰る、動かすというような事がない事を確認し、尚且つ生活を送る上で必要な物であれば、むやみに隠す、しまうような事はしていない		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	何かの事故があった際には、必ずアクシデントレポートを記入し、コピーをとり皆が確認できるよう、各フロアーに配っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルを作成し、フロアミーティングで皆で確認している。夜間等、職員が一人の状態の際には、何かあった場合必ず管理者に電話連絡、報告、確認をするようにしている		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者を設け、半年に1回避難訓練を行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時に必ずリスクに関する説明は密に行っている。また、運営推進会議でも、事故が発生しない為の取り組み、実際に事故が起こってしまったからの対応を家族に説明をしている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調不良者に関しては、必ず個々のケース記録、連絡ノートに状態を記載するようにしている。記録のみではなく、日常の会話等でも申し送っている	○	変化を知る為には、日常の様子を知っておく必要がある為、日頃から利用者との関わりを持てるような時間を設けるようにしている
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方時に出される、一覧表をいつでも見る事のできる所に置き、皆で情報が共有できるようにしている	○	状態の変化により新たな薬が処方された際には、服薬後の情報を必ず記録として残すようにしている
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便がでない理由をいくつか皆で考え、すぐに薬に頼る事なく、食事、運動、水分に関しての意識を皆で高めるようにしている		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	訪問歯科とも連携しながら、毎食後の口腔ケアを行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の回数を重ねることにより、個々の食事、水分摂取量を把握し、個々にあった量の提供を心がけている		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRS A、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルを作成し、日頃から清潔保持には努め、また免疫を保つ為にも、無理のない外出をこころがけている。またマニュアルはフロアーミーティングで皆で確認している		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所用品に関しては、每晚ハイターで消毒をしている。また、利用者が洗い物をした際には、個々の能力に応じ、後で職員が確認するようにしている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には花や看板等の装飾をしている		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は必ず1日1回掃除をしている。また、殺風景にならないよう、壁にちょっとした飾り物をするようにしている		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	あえて死角を設ける事により、一人になりたい時になれるようなスペースを確保している。また、一人になりたいという状況をすぐに把握出来るよう、日頃から関わりを多く持つようにしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた家具や衣類、装飾品を持参してもらい、入居以降も本人が望むようであれば、家族と相談しながら随時購入するようにしている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は随時行っている。エアコンや必要以上に使用せず、暑さや寒さ、季節関する認識を保ってもらえるようにしている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	構造上という事もあるが、全面バリアフリーにしまうと、段差に対する注意力などの、危険察知能力が失われてしまう為、あえて段差は設けるようにしている。また手すりは使いやすい高さを考え取り付けしている		危険察知能の維持という事で、ただ段差を設けるだけではなく、もともと能力が低い方には、きちんと声をかけるなり付き添う等の対応をしている
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	出来ない事は強引に頼まず、まずは出来ることから行ってもらうようにしている。また、本人が不安げな時は必ず一緒に行う、もしくは無理強いしないようにしている		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭には畑を作り、利用者と一緒に野菜を作っている		

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	毎日ある
		<input type="radio"/>	数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	たまにある
		<input type="radio"/>	ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
		○	たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
		○	少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
		○	家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

1. 認知症の状態にある人が生活を送る、という視点を常に持つ。生活を営む、という人の視点と同時に、認知症という部分も考えていかなければいけないと思うので、フロアーミーティングの際には、必ず皆で意見を出し合い考えるようにする。
2. 職員一人では全員を見ることは出来ない為、「チームで支える」という事を常に意識している。職員全員が目指す所は同じでなくてはならないが、そこにたどり着くまでの方法は一人ひとり異なるという点を理解し、安易に注意や否定をしないようにしている。
3. 職員一人ひとりが持ち合わせている「良い部分」を必ず見つけ、それを伸ばす方向性を持っていくよう、その部分が良いという事を伝え、加えてなぜそれが良いのか必ず理由を伝えるようにしている。
4. 言葉で解決しない。人権の尊重、地域の中で共に暮らす等、聞こえの良い言葉ではあるが、それが具体的にどのような事なのか。頭での理解レベルではなく、実践に移す事のできる行動レベルまで考えていけるよう、カンファレンスやミーティングの際には、具体的に話を進めていくようにしていく。